

平成 29 年度第 1 回理工学分野連携グループの合同委員会議事録  
学系別 F D / I C T 活用研究委員会 (物理学、化学、機械工学、建築学、経営工学)  
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会 (電気通信工学、土木工学、生物学)

- I. 日 時：平成 29 年 10 月 21 日 (土) 10:00~12:00  
II. 会 場：私学会館 (アルカディア市ヶ谷)  
III. 出席者：機械工学 角田担当理事、田辺委員長、青木委員、高野委員  
建築学 関口委員長、澤田委員  
経営工学 渡邊委員長、井上委員、水野委員  
物理学 藤原委員長、寺田副委員長  
化学 及川委員長 (SKYPE)、小林副委員長、庄野委員  
電気通信工学 新津委員、高原委員  
土木工学 武田委員  
生物学 佐野委員  
(事務局) 井端事務局長、野本

IV. 担当理事挨拶

委員会開催にあたり、担当理事から今年度の取組みを含めて挨拶があった。

V. 議題概要

1. 理工学分野連携対話集会の進め方について、以下の内容を確認し、その後、分野グループに分かれて話題提供候補の検討を進めた。

個別授業でアクティブ・ラーニングは進んでいるが、解のない問題を自ら見出し、既成概念に囚われることなく解決に向けて自分の考えを持ち新たな課題に挑戦する力を培う分野横断型の学びの仕組みが求められており、理工学系の実験・実習はそのワークショップと考えられる。

今年度は、一つは、学力の 3 要素「十分な知識・技術」、批判的・論理的・創造的な「思考力」、合理的な「判断力」、他者の立場を理解した上で自分の考えを正確に伝える「表現力」と「主体性・多様性・協働性」の向上・発展に効果的な教育改善モデルの紹介、ICT を活用した教育改善の実践事例を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求する。二つは、ICT を活用した口頭試問等による外部評価試験や大学連携コンソーシアムなどの仕組みによる、教育の質保証を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論。三つは、授業科目の相互改善への仕組み、e シラバス、e ポートフォリオなど理解を深める。

話題提供 1 時間 30 分と意見交流 2 時間で 3 時間 30 分の計画とし、「話題提供」は 5 件程度とすることにした。また、意見交流では、必要に応じて教育補助 (TA、SA) 学生の参加を検討することにした。

2. 日程と会場は、12月24日(日) 12:30~17:00で、法政大学を第1候補で調整を行うことにした。

3. 話題提供の候補について

- (1) 機械工学からは、分野横断による社会問題の解決に取り組むPBL型卒業研究について、金沢工業大学の提案があげられた。
  - (2) 建築、土木、電気通信工学からは、①ソスト系の実験・演習としてPBLにより知識・技術の獲得・定着を目指し、TAが関わる体験型学修について芝浦工業大学の提案があげられた。また、②社会人基礎力を培うため異分野の学生チームで地域の問題解決に取り組む芝浦工業大学の提案があげられた。
  - (3) 経営工学からは、問題発見・解決のプロセス、プロジェクトマネジメントを学ぶ千葉工業大学の提案があげられた。
  - (4) 物理、化学、生物学からは、1年で学んだ成果を専門教育と連携してフォローするe-シラバスによるアクティブ・ラーニングの取り組みについて金沢工業大学の提案があげられ、教育をどのように効果的にしているのかの説明が必要との意見があった。
- ・ 話題提供については、学力の 3 要素のどこを目指しているのかを提示する形で開催要項にタイトル、概要を掲載することにした。

V. 今後の予定

次回は11月5日(日)に合同委員会を開催し、開催要項の確定(話題提供、意見交流テーマ)と、運営シナリオ検討・役割分担を行うことにした。